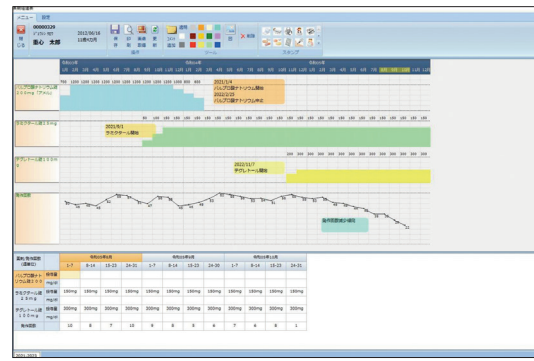


図 MALL長期経過表



手書きで記入し、記録がたまれば整理しなければなりません。そうした業務を効率化し、利用者さんのそばにいられる時間を増やしたいという思いが強くありました」と振り返る。

**施設の特性に合わせた機能提案
現場の意向を著実に反映**

導入に先立ち、同社は現場の職員と入念に意見交換を行い、重心施設ならではの多彩な機能を準備した。療育の適切な管理に欠かせない個別支援計画もその一つ。利

用者ごとに、課題、長期・短期目標、支援内容などの項目が一覧表示される機能は同社のたまたま台をもとに、現場の意見を聞いてカスタマイズした。看護記録とも共有しているため、日々の看護支援内容をリアルタイムで反映できる。また看護記録は看護アプリと連携することでスマホやタブレットから投稿でき、扱いやすく好評な機能となっている。

また、取り組み管理機能は散歩、サークル活動など利用者の毎日の活動内容を記録し、カレンダー形式で確認。さらに、取り組み管理集計機能を使えば、活動内容を利用者別、取り組み別に集計し、利用者家族に活動報告する際の集計帳票としても活用できる。

こうした機能について生活支援課の菊池竜彦科長は「保護者から、お子さんがどんな生活をしているか具体的に知りたいという要望がありました。以前はExcelファイルを使い、取り組みの集計を手作業で行っていましたが、現在はワーククリックで表示できるようにな



幡多希望の家
医療福祉センター

住所：高知県宿毛市平田町中山
867番地
TEL：0880-66-2212
病床数：51床
職員数：83人

株式会社パシフィック
メディカル

住所：(東京営業所)東京都港区
六本木6-10-1 六本木ヒルズ
森タワー 13F
TEL：050-1741-7751

り、管理もしやすく、非常に役立つています」と評価する。

このほか、長期経過表機能(図)は薬剤使用量、検査結果、発作回数などを年単位でグラフ表示。薬剤投与量と発作回数の相関関係など傾向をつかめるほか、急な状態変化時の対応や、医師から診療を受ける際などさまざまな場面で有効活用できる。菊池科長は「リハビリスタッフなど他職種も利用者の現在や過去の支援状況などの情報をリアルタイムで把握できるため、疑問点をすぐに解決することができます。現場の看護師に支援情報を見てもらう機会も増えていきます」と多職種協働における効用も指摘する。センター内のパソコンの端末台数に限りがあるものの、看護師の記録記入を優先に、

他職種はすき間時間に入力したり、文面を簡潔にしたりするなど工夫して対応している。

導入以来、ほぼ2カ月に1回のペースで同社担当者が来訪し、運用などで問題がないかチェックするとともに、センター側の要望事項などを聞いています。今後に向けて、島田施設長が「今では電子カルテ抜きに業務は遂行できません。さらに改良を重ねていきたいと思っています」と厚い信頼感を口にすれば、山口副施設長は「AIの時代と言われています。写真などより見やすい記録を残せるように、どんどんAI技術を入れていっていただきたい」と期待を込める。重心施設の利用者に寄り添った、より質の高いケアの実現に引き続き力を入れていく。



パシフィックメディカルが提案する
「医療DX事始」②

幡多希望の家 医療福祉センター
(高知県宿毛市)

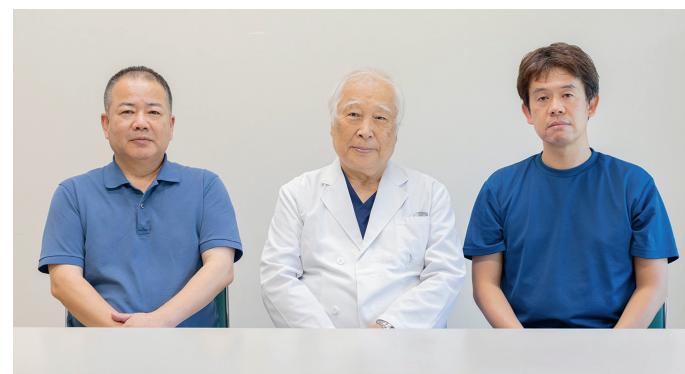
多職種の円滑な情報共有を通じ
重心施設の手厚いケアに貢献

高知県宿毛市の社会福祉法人土佐希望の家「幡多希望の家 医療福祉センター」はパシフィックメディカル社が重症心身障害児者施設向けに開発した電子カルテ「MALL重心」を全国に先駆け、2010年から活用している。多職種のスムーズな情報共有に欠かせないツールとして、利用者への手厚いケアを支えている。

手間を省き、業務を効率化
重心施設として導入第1号

療養介護、医療型障害児入所施設「幡多希望の家 医療福祉センター」は1997年に開設された2022年、「社会福祉法人土佐希望の家」(同県南国市)と合併した。現在、重症心身障害児者49人が寝食をともにするほか、外来診療(小児科、内科、リハビリテーション科)、放課後等デイサービス・児童発達支援などの在宅支援を行っている。

医療、看護、療育、リハビリテーションという多様な役割を担う同センターについて、医師の島田誠一施設長は「看護師と生活支援員の仕事がメインで、医師がサポートする形の施設ですが、利用者さんを支援する職員が潤沢におり、充実した介護ケアを提供しています。長期間、入所している方も多く、安全・安寧に過ごしていただくことを最も重視しています」と説明する。



(左から) 山口卓郎副施設長、島田誠一施設長、菊池竜彦生活支援科長

同センターはもともと、紙カルテを使っていたが、現場の意向も踏まえ、業務効率化の観点から電子カルテの導入に踏み切った。宿毛市はパシフィックメディカル社のおひざ元でもあり、稼働に向けた準備期間はもちろん、導入後のサポート体制も万全という安心感も決め手となった。

山口卓郎副施設長(看護部長兼務)は「紙カルテを使っていた時期は部屋のなかにこもり、黙々と